

十月二十六日 淡路島参り

秋恒例の参拝ツアーですが、昨年は淡路島の寺院2カ寺の参拝と淡路・鳴門の観光に参りました。参詣先のお寺さんはこういう団参だからこそその温かいおもてなしで迎えて下さり、まごころこもったお話もして下さいました。当日は良い天気で海や橋の眺めも良く、参加者同士のコミュニケーションも進んで有意義な一日でした。

初めて来られた方でも参加してみると楽しいものだと思います。今年はまだどこへ行くか決まっています。今年はまだどこへ行くか決まっています。今年はまだどこへ行くか決まっています。



文化講座を担当して

副任職
若松 慶隆

あけましておめでございませう。昨年一月よりご縁あって山陽新聞カルチャープラザで『御詠歌入門』講座の講師を担当させて頂いて一年が経ちました。いろんな意味において大変貴重で良い経験をさせて頂いていたと思っております。

まず、この講座の講師を担当することが決まってから初回を迎えるまで、とても興味を持っていただけました。

す。それは何名の方がどのようなきつかけで受講しに来て下さるのか、ということ。なぜならば、それを考察することに今後の御詠歌界への大きなヒントが隠されていると考えていたからです。年末より忙しくもドキドキワクワクしながらテキストの準備をしたものであります。

一月十四日、第一回目、第一回の講義。蓋を開けてみると20名近い方が教室にいらつしやいました。正直驚きでした。そもそも御詠歌が地域の娯楽の一つとして大きなウェイトを占めていたのは今から20〜30年前の事、その後は入門者の激減と高齢化で、地域から御詠歌の灯がまさに消えようとしている現状にあります。そんな中であつて多くの方が御詠歌の門を叩きに



来て下さっている現実、さらに言えばその背後には行きたいけど都合で来られなかった方もいるはずですから、『御詠歌に興味を持っている人はたくさんいる』『まだまだ御詠歌も捨てたものじゃない』と思つたものです。

ではその方たちがどのような経緯で受講下さったのでしょうか。主に私が話を聞いていて感じたのは、

- ・御詠歌を何かの機会に聞いたことがある。
 - ・すごく素晴らしいものだなと思った。
 - ・でも気軽に基本を学べる場がなかなかない。
 - ・そんな折に御詠歌講座を知つて「行ってみよう！」
- といった流れの方が多くようです。つまり御詠歌に関心はあるものの、気軽に御詠歌を学べる機会がないのが現状だということだと思ひます。そのギャップを埋められれば御詠歌界は息を吹き返すことが出来るはず、だけどそれがなかなか出来そうではない課題なのだろうと思ひました。

以来そんな皆様とともに講座に鋭意取り組んで来たつもりではあります。御詠歌を習うのは全く初めてという方々を前に、どのように説明すれば理解して頂けるか、自分自身も試行錯誤の「予習」をしながら、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。受講者の方も、一つのことを理解するには「壁」がありながらも一生懸命付いて来て下さり、徐々に分かることが増えてきた感じであり、私としても大きなやりがいを感じます。当初は三ヶ月の入門講座でしたが、「もっと続けて勉強したい」という方も多く居て下さり、その後も10名余りの方で講座を続けております。皆さん大変熱心です。

最初は御詠歌の心得や成り立ちから始まり、譜面の読み方や唱え方の説明と練習をひたすら基本からして参りましたが、今では音程と呼拍(音の長さ)などの要領が大分理解して頂けるようになつてきていると思ひます。正直かなりのハイペースです。そうやって付いて来て下さる方がいる限りは自分も引き続き力を注いで参りたいです。今後は鈴鉦の使い方も導入して、出来れば本場に通りの御詠歌を習得して頂けるまでやっていく予定であります。

他にもとっても良いことはたくさんありました。

皆さん大変親切で、初回の講座が終わると朝日寺について詳しく調べて下さつていた方が何人も居られましたし、回を重ねるごとに徐々に親しみも出てきて、実際に朝日寺にお参りして下さつた方や、行事に来て下さつた方もおられました。これは非常に嬉しいことですし、ありがたいことです。そして最初には知らない者同士だった人が今では仲良く教室で談笑している姿を見るのはとても微笑ましいです。袖振り合うも多生の縁、新たな友と



出会うのは良いものだなと思ひます。

また、自分自身にとつても大きなプラスだと感じます。受講者のほとんどは元々見知らぬ方ですので、檀家の方々に前にお話するのはまた違った緊張感があります。だからこそ、若輩者の私には一回二時間の講義が毎回自分の刺激になっています。「教える」と言うよりは「お伝えする」、自分も皆さんからたくさん勉強させて頂いたという感じですね。

とある御詠歌の先生に、カルチャープラザの現況について聞かれた時に頂いたお言葉。「受けに来てくれる人はすでに貴方の信者さんなのです。何と云へば自信を持ってやれば良いのです。」と。このような機会を与えて下さつた受講者の皆さんを始め、山陽新聞社様、他サポート頂いた方、本当に感謝しております。聞くだけではなく実際にやる御詠歌の良さや奥深さを少しでも感じて頂けたなら幸いです。

願わくはこの功徳を以て
遍く一切に及ぼし
我等と衆生と皆共に仏道を成ぜん 合掌

追伸

まだ不確定ですが、今後について
の情報です。

- ・御詠歌講座の新規受講者募集を新年より強化する方針。
- ・ただし講座の特性上、学習歴に一年差のある方を一緒にするのは難しい面もあるのが現実なので...
- ・一定人数の新規申込者があれば別に新たな入門講座を開講させる。
- ・少なければ新規者にはフォローをしながら現講座に入つて頂く。

ありがたいことも山陽新聞社からは「御詠歌は大変好評」「御詠歌講座をもっと発展させたい」という旨のお話を頂いてあります。当文執筆時点(十一月)ではまだどうなるか分かりませんが、ぜひ御詠歌にご興味のある方はお問い合わせ下さい。お待ちしております。もちろん朝日寺での御詠歌のお稽古もやっております。

本文の通り、全くの初心者でも積み重ねていけば十分ものになつていくということ。あなたも御詠歌やってみませんか？

霊園・永代供養塔について

「朝日寺やすらぎ霊園」は一期分譲分がなくなり、二期分として、新たに区画を分譲しており残りが少なくなっております。

永代使用料は1㎡68,000円、管理料は800円です。

※3年前より檀家外の方にも当霊園を購入頂けるようになりました。(ただし、永代使用料が1㎡74,000円となります。)

墓地をお考えの方はお気軽にご相談下さい。

また朝日寺墓苑には、お墓を管理する人がいない方やお墓の管理が困難な方のために朝日寺が責任を持って供養する永代供養塔があります。現在一期分は満員となり、二期目に入っています。

納骨料は朝日寺の壇信徒であるなしに関わらず、一霊25万円と墓碑書込み料3万円です。また、同時に複数霊納骨される場合や既にお骨がなくなっている場合等については個別に相談に応じます。生前予約も承っております。永代供養をお考えの方はお気軽にご相談下さい。



平成 28 年・年忌のご案内

今年の年忌は以下の通りです。

回	忌	没	年
一	周忌	平成27年	(2015年)
三	回忌	平成26年	(2014年)
七	回忌	平成22年	(2010年)
十三	回忌	平成16年	(2004年)
十七	回忌	平成12年	(2000年)
二十五	回忌	平成4年	(1992年)
三十三	回忌	昭和59年	(1984年)
五十	回忌	昭和42年	(1967年)